

2018年6月15日

三田市長 森 哲男 様

済生会兵庫県病院の存続・充実を求める会  
代表 浜本宏 ( )

### 三田市民病院の継続的な経営に関する審議会論議についての意見書

私たちは神戸市北区で、済生会兵庫県病院の存続・充実を求めて活動している住民団体です。

去る5月30日、三田市民病院の継続的な経営に関する第2回審議会(略「審議会」)が開催されました。そこでの論議は、私たち神戸市北区住民にとっても関係するものであり、「済生会兵庫県病院の存続・充実を求める会」として「審議会」の議論にたいしての見解を表明するものです。

「審議会」では、医療ニーズや三田市民病院が果たしている役割については全く議論もされず、もっぱら市民病院の経営状況の議論に終始しました。三田市民病院は断らない医療をモットーに、患者も増え病床利用率も向上して2017年度は収益的収支が黒字になり、今後も黒字になることを認めながら、入院単価の高い患者を集めて収益性をもっと高めるべきとの議論も行われました。

市民病院でありながら、入院単価の高い「もうかる患者」を選別すべきというのです。これでは、一般市民は排除されてしまう可能性があります。

さらに人件費の低い研修医を集めて、効率的に収益をあげるために大規模な病院に統合再編するとともに、人件費比率を思い切って下げるために民营化を検討すべきとの議論が展開されました。「大規模な病院に統合再編」ともなれば、済生会兵庫県病院との統合再編になるのではないかと強く危惧されます。

この間、「済生会兵庫県病院の存続・充実を求める会」は陳情署名(5308筆)を神戸市議会に提出し、結果は不採択に成らず「審議会打ち切り」になりました。

「打ち切り」理由書で「圏域を超えた病院移動を伴う再編統合は難しいこと、北区住民への影響が大きいこと」が記されています。

北区住民にとって「済生会兵庫県病院」は「地域医療の宝」です。神戸市北区住民の願いを受け止め、三田市民の声も十分反映されるような審議会論議を強く願うものです。